第６号
定価１年間３００円
組合員の購読料は
組合費に含む

ひやま

発行　檜山教職員組合
〒 043-0056　江差町字陣屋町 86-1
TEL 0139(52)0858　FAX (52)1490
発行責任者　石 橋 英 敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

2014年度檜山合同研究集会

～領域問題別集会～

土佐林さん

越前さん

平和」や 人権」を学ぶこと

～他人事ではないことを実感させる授業を考える～

檜山合同教育研究領域問題別集会が八月三〇日（土）に乙部町生きがいセンターを会場にして開催されました。四五名が参加し、レポート一二本が報告され、様々な角度から検討されました。

全体発表では、鶉小学校の土佐林洋介さんが「平和を題材とした授業実践と課題」、江差小学校の越前秀一さんが「憲法の学習について」の実践報告を行いました。

土佐林さんは、昨年、長崎で行われた原水爆世界大会に参加しました。そこでスピーチしたオリバーストーン氏（米国映画監督）の言葉に今回の実践の発端があると語ります。氏は、ベトナム戦争を描いた「プラトーン」という作品を残しています。また、それでアカデミー賞監督賞も受賞した方です。氏が日本滞在中、様々な日本の若者と対面し、驚いたことは、自分たちの国が昔、直面した「戦争」にも関わらず、他人事のように聞いていることだったそうです。土佐林さんは、「戦争」という事実を直視し、どうやって、他人事にならないように授業実践するか悩んだと吐露します。そして、「戦争体験者の話しを丁寧に聴き取る」ことや「劇で発表する」こと、そして、事実を基に「討論する」ことを大切にした実践に取り組みました。

越前さんは、まず、社会科教師として、意識していることを語ります。それは、「公民的資質の基礎を養う」こと。そして、その際に「全ての国民は、個人として尊重される（憲法一三条）」「思想及び良心の自由は、これを侵してはならない（同・一九条）」を子どもも有していることを忘れてはならないと教師としての姿勢を示します。そして、必要な情報を提示し、子どもたちの思想形成の自由を保障した授業を行うことの大切さを語りました。

二人とも、「平和」や「人権」という、人格形成にとって極めて大切なことを丁寧に実践したもので、参加者からは、「戦争は、他人事でないことを実感させたい」「大切な問題だけに深く、教材研究が必要。何を大切にしなければいけないか非常に参考になった」という感想が数多く聞かれました。

その後、「学級づくりと生活指導」「職場づくり」「父母地域関係づくり」「いじめ・不登校・教育困難」の４つの分科会に分かれ、研究が行われました。

「なんか、自分を取り戻した感じがした」「時間が足りなかった」という感想もあり、課題や困難が共有されるとともに、日常をいろんな視点から振り返る機会となりました。

次回、檜山合研教科等集会が十月四日（土）、厚沢部小学校で行われます。

実践発表を聴く参加者

檜山合研「実践報告」の感想

〇戦争を知らない世代である自分たちが、戦争について語っても何も説得力がない。その中で、再び戦争を起こさないために、教え子が他人を殺めないように指導していく、子どもたちに考えさせていくことは、とても大変で、難しいことだと思いました。「平和」について、「戦争」についての知識は、もっと勉強していかなければならないテーマだと実感させられました。

〇子どもの頃、学校行事の中で、“平和の集会”というものもあるくらい、様々な機会で、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて学んできました。そういう中、幼いながら強く根づいたのは、「戦争は絶対ダメだ！」ということでした。それは大人になった今でも私の根底にあって、戦争について、平和について、学んでいかなければ（伝えていかなければ）ならないという焦りにつながっていると思います。資料の提示などについて、お話しもありましたが、小学校1年生～6年生まで、それぞれの段階で伝えられる伝え方があると思うので、そのためには、提示の仕方を自分が選択できる力を付けていく必要が在ると感じました。ありがとうございました。

〇最近の自然災害のニュースを見て、「自分の家がこうなったら…」「自分の友だちが亡くなったら…」「自分の…」と自分におきかえて想像し、心が痛む。平和教育、憲法学習においても、「自分の国が…」「自分の地域が…」「自分の親しい人が…」と想像し、自分の考えを持つことが大切だと感じた。そのための資料の工夫を今後研究していきたいと思いました。

〇子どもたちとの関係の中では、いいたいことも、やりたいこともあるけど、子ども等の語る権利、考える権利？として、必要な資料･知識を中立に提起しようすると、僕らはちゅうちょしてしまいます。そんな取り組みを先行実践している点に、感謝と賞賛をおくります。

〇平和･人権という大きな問題を直視し、それを子どもたちに授業として提示し、考えることに、勇気と真髄を感じた次第です。私も一教師として発奮したいと思いました。

〇おニ人の話は、とても深いお話しでした。子どもたちへどうしたら伝わるか、どう教えるかを深く勉強しています。その姿勢がステキでした。がんばって欲しいです。

〇おニ人の実践は、非常に興味深く聴かせていただきました。平和･人権という大きな問題を直視し、それを子どもたちに授業として提示し、考えさせることに勇気と教師としての真髄を感じた次第です。これからもおニ人の活躍を期待しますし、私も一教師として発奮したいと思いました。ありがとうございました。

第四五回文化活動講座

～二日目は奥尻出張講座！～

指導を受ける参加者

八月二三日（土）、乙部町「交遊館」にて、文化活動講座が開催され、一三名が参加しました。例年のように「こぶし座」の皆さんを講師に迎え、今年は全員で「三宅島木遣り太鼓」「しの笛」を学びました。初めて参加するという先生や、太鼓をたたくこと自体が初めてという先生もいましたが、最後にはみんなで披露し合うまでになりました。「太鼓って、なんかいい！」と太鼓の魅力にとりつかれた若い先生もいました。

また、次の日、今年は、奥尻で「出張講座」を開き、「桧山座」から、鈴木伸吾さん（滝沢小）、中川真一さん（館小）が講師を務めました。演目は、「ソーラン節」と「ぶち合わせ太鼓」。日曜日にもかかわらず、町内の小学校と中学校から、二〇代から四〇代後半までの一四名が参加し、汗を流しました。

「奥尻出張講座」で参加した二名の先生からの感想です。

『よさこいソーランは小さい頃から踊っていましたが、ソーラン節は初めての体験でした。とても楽しく覚えることができ、子ども達への指導にも大変役立つと思います。ありがとうございました。翌日から2日間は筋肉痛におそわれました。自分の体力のなさを実感し、子ども達にしっかり教えるためにも運動しなければ、と痛感しました。』（二十代男性）

『自宅と学校の往復だけになりがちな島生活。リフレッシュすることができました。20代の若い先生方と踊ったり、太鼓をたたいたりしたのは、大変貴重な体験でした。人が集まって、一緒に体を動かしながら何かを完成させていくのは、とても楽しいものですね。もちろん、その日の夜から筋肉痛が始まり、太ももと腕にきました！ヒップホップも良いけど、民舞も演歌のように体にしみわたり、あなどれないなあ。」と思いました。波に揺られながら島に来てくださった二人の先生方、本当にありがとうございました。』（四十代女性）

奥尻の子ども達にホンモノのソーラン節を伝えたい、ホンモノの和太鼓を教えたい、そんな熱心な奥尻の先生方の思いにこたえるように、講師の先生方も前日の乙部での疲れをもろともせず、熱意あふれる指導をしてくださいました。

前日の夜、この時期としては珍しく20分もフェリーが遅れました。（つまり、かなり揺れたということ）そんな大変な中で島入りした二人の先生方にはとても感謝しています。

奥尻支部：山崎直子記

三宅島木遣り太鼓の指導風景

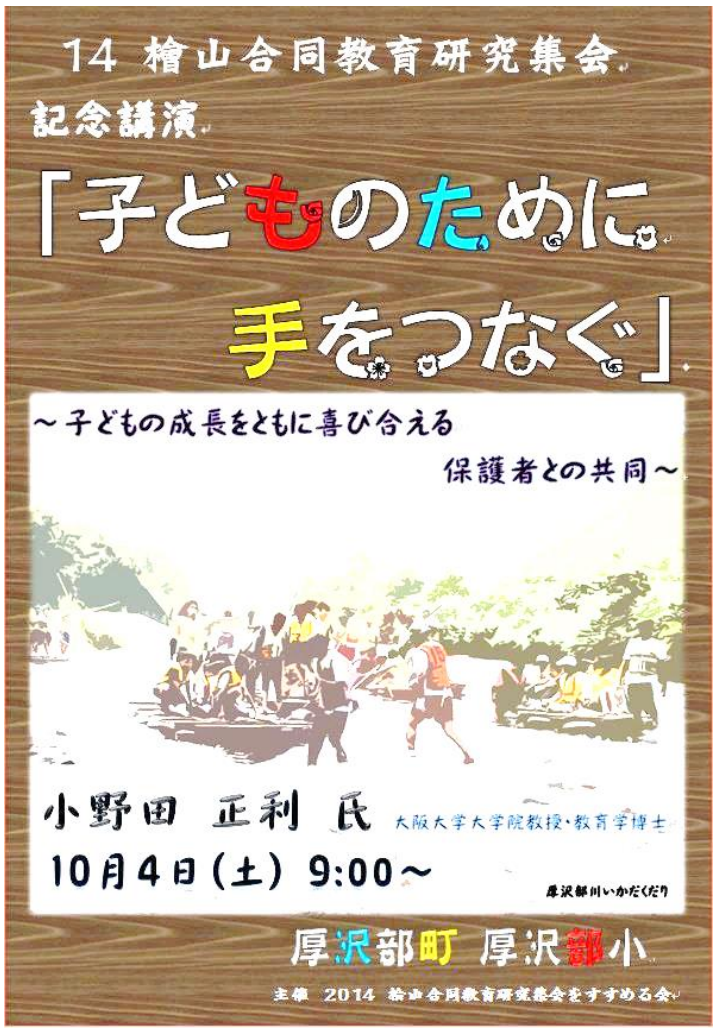
檜山合研「実践報告」の感想のつづき

〇おニ人の実践報告。とても落ち着きのある語り口ですすめられ、おニ人自身が何か重要なことを確信しながらの授業であることを感じ取れました。その確信とは、「平和と民主主義」への彼ら自身の深い洞察にあると思いました。そして、そのことを授業を通して、子ども達と学び合うこと自体がとても意味あることだと感じているのでしょう。そのことがおニ人の教育実践へのロマンになっていることも感じ取れました。このようなおニ人と職場をともにし、授業論・子ども論を旺盛に語り合いながら、毎日が送れると幸せなのにとも思っていました。

〇若い先生たちがすばらしい実践をするのを見て、大変うれしく思います。檜山教組の力と将来に安心しました。

〇自分たちの歴史を知らない若者が多くなっていることを土佐林先生に出会った子どもたちはクリアーできそうで幸せだなぁと思いました。越前先生の授業では、憲法のことを学ぶと共に、“自分なりに考えをもつこと”“今からニュースにも目を向けること”“積極的に選挙などで政治参加すること”など視野が広がっていることがステキだと思いました。

〇人それぞれ、「意見」は様々ありますが、「事実」は一つです。そして、「戦争はダメ」というのは、人としての「道理」なので、どんな立場の人も同じ思いといっても良いと思います。難しく考えず、臆することなく、その「『事実』と『道理』に基づいて、未来の子どもたちのために、授業をすればいいんだ」と思う事ができる実践報告でした。眼を拓かせていただきました。ありがとうございました。



文化活動講座実行委員会は、学びたいという要求がある限り、講座は続けて行きたいと語っています。そして、「どなたでも参加できます。皆さんのご参加お待ちしています」と参加者に呼びかけています。

一人で悩まないで、お電話を！
「学校に行きたくない」「やめたい」というの…
発達におくれが…？　いじめられる！　等々
北海道子どもセンター（札幌市東区北9条東1丁目2-22）
携帯電話からは011-733-6606へ
0120-603406
子育て・教育電話相談　月～金（13:00～17:00）